

熱く 羽ばたけ 大潟っ子

白鳥



校長通信
大潟村立大潟中学校
令和4年9月30日(金) 発行
NO.5 文責:安田 和人



9月最終週は前期期末テストを含め、多くのことがあったのでまとめて紹介します。

男女共同参画社会

男女共同参画社会とは、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任も分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮できる社会のことです。

かつては、男性は仕事をし、女性は家庭を守るといった社会的・文化的につくられた「男らしさ」「女らしさ」という意識がありました。しかし、このような固定的性別役割分担意識の解消を目指して男女雇用機会均等法改正(1997)や男女共同参画社会基本法(1999)が施行され、SDGs(目標5:ジェンダー平等を実現しよう)が国連サミットで採択(2015)されるなど、その意識も大きく変容してきています。料理や掃除・洗濯等の家事に関するテレビCMでは、一昔前に比べ男性タレントの出演が日常的なものとなっていることから、その変化がうかがい知れます。

9月27日(火)の朝、生徒会役員を選出にあたり、臨時の生徒総会が開催され、現生徒会執行部から『大潟中学校生徒会会則』第5章生徒会役員についての規約改正の提案がありました。その内容は、



現行の会則では、『副会長、書記ともに男女各1名』となっているところを、男女の区別なく『副会長2名、書記2名』に改正したい。男女で区別された役割に対する考え方を考え、生徒会も男女を区別せずに役割を配分する考え方を取り入れていきたい。また、大潟中は学年によって男女の人数の偏りが多く、男女の人数を平等に配分していくことは難しい。何より、男女に関係なく、やる気のある人に大潟中学校生徒会を引っ張ってほしい。

というもので、その後質問や反対意見もなく、全生徒の2/3以上の賛成があり、規約が改正されることになりました。

大人でもなかなか難しいことですが、今後も固定的な性別役割分担意識や無意識の思い込みに基づく言動、ルール等がないか振り返り、性別で生き方を制限することなく、互いの個性を大切にするように心掛けていきましょう。そして、男女共同参画の意義を理解し、社会の一員として積極的に参画していく態度を身に付けてほしいと思います。

大潟村の魅力と課題

同日5校時には、干拓博物館船木信一館長の講話会が開催されました。昨年度はアオコに関する水質汚染の講話をしていただき、生徒会が中心となってアオコ解消のための活動を行ってきました。しかし、なかなかうまくいかずに、次の一手を考えていかなければいけない現状にあります。

さて、今回の講話会では村に勤務する村外在住者の視点で、館長が日頃感じている村の魅力と課題についてお話してもらいました。課題の一つは、「住民(特に若者)の意識がどこまで故郷に向いているか不透明」ということでした。村が脱炭素化を実現する「先行地域」に選定され、太陽光の活用やもみ殻を燃料とするエネルギー作りに取り組んでいこうしていることを知っている生徒は2人しかおらず、こういった現状からも館長がいう課題が浮き彫りにされました。

また、再生可能エネルギーを生み出す際のメリット、デメリットや、館長が提唱する「船木

式波力発電機」についてのお話がありました。生徒は皆、いわゆる「船木式」の話に興味津々で、質疑応答の時間には「船木式」についての質問が飛び交いました。発想が豊かな館長から刺激を受け、講話会終了時のもっと話を聴きたいという皆さんの表情が印象的でした。

【講話会の感想(一部抜粋)】

- ・僕が心に残ったのは、大潟村は「自然災害が圧倒的に少ない」ということです。例えば8月頃にあった大雨の災害のときも隣の三種町や五城目町などは家に水が浸水して重大な被害が出ているのに、大潟村はたくさん雨が降っただけで特に被害がなかったので少し疑問に思っていたけど、今回の講話でその疑問が解決しました。(1年男子)
- ・今の大潟村は、人口動態が安定していることや人工の大地だから環境改善が容易だという魅力がある中で、住民の大潟村に対する意識が足りないことや、脱炭素先行地域であり、取組をしていかなければならないという課題があると分かりました。私は大潟村について知らないことだらけだったのでこれを機会に大潟村についてもっと関心をもっていきたいと思いました。(2年女子)
- ・脱炭素先行地域に村が選ばれ、発電についていくつかの案がありましたが、そのために村の自然環境が悪化するのはいやと考えているので、船木館長考案のようなデメリットの少ない発電方法で脱炭素、そして村の発展につながったらと思いました。いつもとは少し違う視点から村の魅力・課題・これからについて考える貴重な機会になったのでとてもよかったです。(3年男子)



性教育講座

翌9月28日(水)5校時には、秋田大学附属病院産婦人科の藤嶋明子先生を講師として迎え、3年生を対象に「性教育講座」が開催されました。お話の冒頭、「将来子どもは何人欲しいですか」という問いかけに、明確に回答できる人はいませんでした。まだこれからずっと先の話だと思っている人がほとんどだと思います。しかし社会に出る前に、健康で正しい性知識を身に付けていくことはとても大切なことです。また、現代の若者のエネルギー摂取量は終戦直後の日本人よりも低い状態にあり、成長期における食生活がその後の妊娠に大きく関わってくることや、「子どもを持つ持たないを決める権利」「自分が欲しい子どもの数を、欲しいタイミングで持つ権利」があることなどを教えていただきました。



性感染症の恐ろしさや罹らないための正しい知識を知るために、藤嶋先生が紹介して下さった『つながるBOOK』(日本産婦人科医会制作)は保健室にもありますが、インターネットからも見る事ができます。また、藤嶋先生から保健室に『女と男のディクショナリー HUMAN+』(日本産婦人科学会)という書籍を2冊寄贈してもらいました。

心配なことや困ったこと等がある場合には、決して一人で悩まずに、必ず誰かに相談したり、これらのような信頼できる書籍等を活用したりしてください。